



福岡医発第426号(地)

平成25年 5月 7日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会
会長 松 田 峻一良
(公 印 省 略)

九州電力からの今夏の節電に関する協力依頼について

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて今般、九州電力より標記の件に関して別添のとおり協力依頼があり、平成25年5月2日開催の本会第4回全理事会にて協議の結果、本会といたしましても協力することといたしました。

九州電力によると、今夏の電力需給見通しは、原子力の再稼働がない場合においても、他電力会社からの応援融通受電を含むあらゆる供給力対策を織り込むことで、電力の安定供給に必要な最低限の予備率3%が何とか確保できる見通しとのことです。

しかし、電力需給の急増や火力発電所等の電力供給設備のトラブルなどの需給変動リスクが顕著化した場合には、より厳しい需給状況が予想されることから、今般の協力依頼が発出されております。

具体的には、下記の節電期間・時間において、今夏の需要想定において定着節電として織り込んでいる節電を目安に、生活・健康や生産・経済活動に支障がない範囲で可能な限り、節電にご協力を依頼するものであります。

つきましては、貴会におかれましても本件にご了知いただくとともに、貴会会員への周知方につきご高配賜りますようお願い申し上げます。

記

[節電にご協力いただきたい期間・時間]

期間：平成25年7月1日(月)～9月30日(月)の平日

(お盆期間8月13日～8月15日を除く)

時間：9時から20時

今夏における節電へのご協力のお願いについて

日頃より節電にご協力いただき、誠にありがとうございます。

今夏の当社における需給見通しは、原子力の再稼働がない場合、すでにお客さまに定着したものと考えられる節電効果（▲149 万 kW）を織り込んだ電力需要に対して、他電力会社からの応援融通受電（最大 90 万 kW）を含む、あらゆる供給力対策を織り込むことで、電力の安定供給に必要な最低限の予備率 3 %を何とか確保できる見通しです。

しかしながら、電力需要の急増や火力発電所等の電力供給設備のトラブルなどの需給変動リスクが顕在化した場合には、より厳しい需給状況になることが予想されます。

また、全国の需給見通しについては、国において、有識者から成る「電力需給検証小委員会」において検証され、その結果、大規模な電源脱落や、景気上昇による電力需要の増加の可能性などを考慮すれば、電力需給は予断を許さない状況であることから、国は、国民の節電の取組が継続されるよう、節電要請を行っております。

当社としても、これらを踏まえて、本日、この夏の節電のお願いをさせていただくこととしました。

具体的には、今夏の需要想定において定着節電として織り込んでいる節電※を目安に、お客さまの生活・健康や生産・経済活動に支障がない範囲で可能な限り、節電にご協力いただきますようお願いいたします。

※ 昨夏にご協力いただいた節電の約 8 割（H22 年夏季最大電力比：▲8.5%）

[節電にご協力いただきたい期間・時間]

- ・ 期間：平成 25 年 7 月 1 日(月)～9 月 30 日(月)の平日（お盆期間 8 月 13 日～8 月 15 日を除く）
- ・ 時間： 9 時 から 20 時

当社は、今後も引き続き、原子力発電所の安全性・信頼性の向上、お客さまへのご説明など、1 日も早い再稼働に向けて、事業者として出来ることを最大限行うとともに、電力の安定供給確保に向けた需給両面の対策について取組んでまいります。

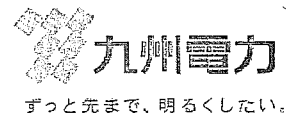
お客さまにおかれましては、ご不便とご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございませんが、今夏におきまして、節電へのご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

以 上

今夏における節電へのご協力のお願いについて

— 詳細ご説明資料 —

平成25年4月26日
九州電力株式会社



(目次)

- 1 今夏の需給見通し（原子力の再稼働がない場合）
- 2 今夏における節電へのご協力のお願いについて
- 3 需給ひっ迫予想時のより一層の節電のお願いについて

1 今夏の需給見通し（原子力の再稼働がない場合）

1

- 今夏の電力需給については、原子力発電所の再稼働がない場合、すでにお客さまに定着したものと考えられる節電効果(▲149万kW)を織り込んだ電力需要に対して、他電力会社からの応援融通受電(最大 90万kW)を含む、あらゆる供給力対策を織り込むことで、電力の安定供給に最低限必要な予備力(予備率 3%程度)を何とか確保できる見通しです。
- しかしながら、H22年並みを超える猛暑や景気の上昇による電力需要の急増、及び、火力発電所等の電力供給設備のトラブルなど、需給変動リスクが顕在化した場合には、より厳しい需給状況になることが予想されます。

1 今夏の需給見通し（原子力の再稼働がない場合）（つづき）

2

(発電端: 万kW)

	7月		8月		9月	
	①H22年並み猛暑	②平年並み気温	①H22年並み猛暑	②平年並み気温	①H22年並み猛暑	②平年並み気温
供給力ー需要 [予備率]	49 [3.0%]	73 [4.6%]	49 [3.1%]	73 [4.6%]	128 [8.7%]	152 [10.5%]
需要(※)	1,610	1,588	1,610	1,588	1,467	1,445
供給力(合計)	1,659	1,661	1,659	1,661	1,595	1,597
原子力	0	0	0	0	0	0
火力	1,242	1,242	1,241	1,241	1,237	1,237
水力	113	113	109	109	109	109
揚水	166	168	166	168	170	172
太陽光	31	31	33	33	23	23
地熱	16	16	16	16	16	16
融通	87	87	90	90	35	35
新電力等	4	4	4	4	4	4

(他電力会社からの応援融通がない場合)

供給力ー需要 [予備率]	▲ 80 [▲5.0%]	▲ 52 [▲3.3%]	▲ 83 [▲5.2%]	▲ 56 [▲3.5%]	91 [6.2%]	115 [8.0%]
-----------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	----------------	-----------------

(注) 四捨五入の関係で合計値が合わないことがある

(※) 今夏の電力需要は、節電に関するお客さまアンケートの結果に基づき、昨夏の節電実績▲189万kWのうち、約8割の▲149万kW(H22年夏季最大電力比▲8.5%)を見込んでおります。

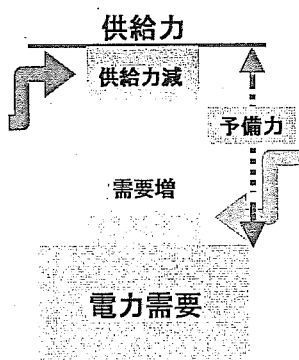
(国による検証結果)

上記の電力需要・供給力については、国の「総合資源エネルギー調査会（経済産業大臣の諮問機関）の総合部会」の下に設置された「電力需給検証小委員会」において、検証が行われ、概ね妥当であることが確認されました。

- H22年並みを超える猛暑や景気の上昇による電力需要の急増、及び、火力発電所等の電力供給設備のトラブルなど、以下のような需給変動リスクが顕在化した場合には、より厳しい需給状況になることが予想されます。
- このため、当社は、需給変動リスクが万一発生した場合においても、電力の安定供給確保に向けて、実運用の直前まで、あらゆる需給両面の対策に取り組んでまいります。

[供給面の変動リスク]

ケース	リスク [影響量]
A-1	発電所の計画外停止 ・ 電源線の2回線トラブルに伴う発電所の大規模停止 (新大分火力線: ▲230万kW、苅北火力線: ▲140万kW) ・ 単機最大 ▲70万kW ・ 小丸川下ダム洪水による発電制限 ▲80～▲120万kW
A-2	渇水による水力供給力の減 ・ 渇水の場合 ▲20万kW
A-3	他社の応援余力不足による融通受電の減 ・ 中西地域の予備率の減、▲1%あたり ▲90万kW



[需要面の変動リスク]

ケース	リスク [影響量]
B-1	猛暑による需要増 ・ 気温1℃あたり +40～50万kW
B-2	節電効果の減 ・ 節電率 ▲1%あたり +17万kW
B-3	経済活動の活性化による需要増

(余 白)

2 今夏における節電へのご協力のお願いについて

4

(1) 国からの節電要請

- 国において、電力各社が報告した今夏の需給見通しに基づき、現在稼働中の大飯原子力3・4号機以外の原子力の再稼働がない場合の全国の電力需給について検証がなされました。
- その結果、全国的(沖縄電力管内を除く)に「数値目標を伴わない節電」が要請されました。(平成25年4月26日 電力需給に関する検討会合において決定)

【国からの節電要請内容(沖縄電力管内を除く)】

- 現在定着している節電の取組が、国民生活、経済活動等への影響を極力回避した無理のない形で、確実に行われるよう、節電を要請する。
但し、具体的な数値目標は設けない。節電要請にあたっては、被災地、高齢者や乳幼児等の弱者、熱中症等への健康被害に対して、配慮を行う。

※ H25年度夏季の各電力会社管内における定着節電は、H22年度最大電力比で以下の数値を見込んでいる。これらは節電を行うに当たっての目安となる。

九州電力管内 ▲8.5%

➤ 節電要請期間・時間

- ・ 期間：平成25年7月1日(月)～9月30日(月)の平日(8月13日～8月15日を除く)
- ・ 時間：9時～20時

2 今夏における節電へのご協力のお願いについて (つづき)

5

(2) 今夏における節電へのご協力のお願い

- 当社の今夏の需給見通しや、国からの節電要請を踏まえ、お客さまにおかれましては、ご不便とご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございませんが、以下の内容で、引き続き、節電へのご協力をお願いします。

【お願いの内容】

今夏の需要想定において定着節電として織り込んでいる節電※を目安に、お客さまの生活・健康や生産・経済活動に支障のない範囲で可能な限り、節電にご協力いただきますようお願いいたします。

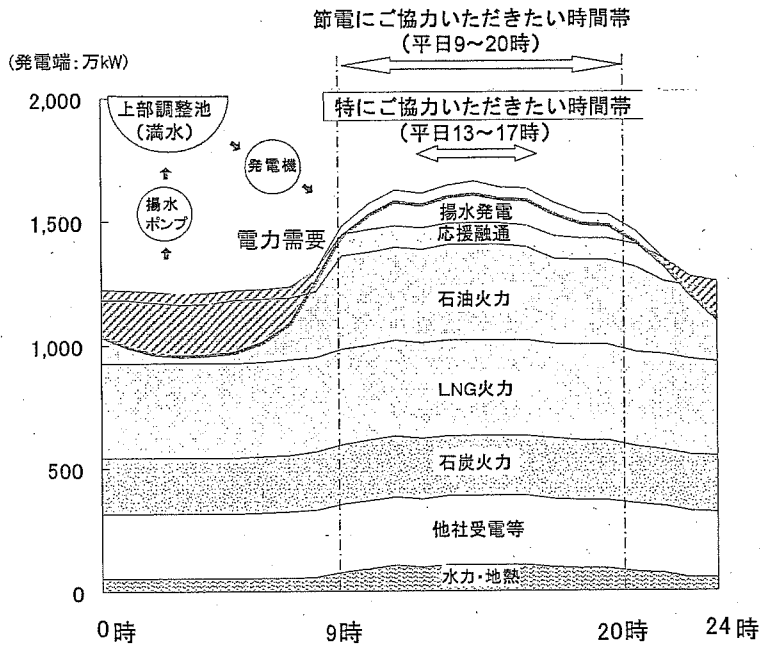
※昨夏にご協力いただいた節電の約8割(H22年夏季最大電力比▲8.5%)

[節電にご協力いただきたい期間・時間]

- ・ 期間：平成25年7月1日(月)～9月30日(月)の平日(お盆期間8月13日～8月15日を除く)
- ・ 時間：9時～20時

(3) 節電にご協力いただきたい時間帯

- 1日の中では、平日の9時～20時にご協力をお願いします。
- 特に、電力需要が高くなる時間帯(13時～17時)は、重点的な節電へのご協力をお願いします。



【需給バランスの改善効果】

① ピーク時間帯 (13～17時)

- ・電力需要が減少することにより、電力の供給予備力の確保につながります。
- ・また、電力需要急増時の供給力不足の解消にもつながります。

② 昼間帯 (上記以外の9～20時)

- ・電力需要が減少することにより、この時間帯の揚水発電量を低減することができます。
- その結果、この時間帯に温存した分をピーク時間帯の供給力として活用することができます。

効果大

(余 白)

(4) 節電にご協力いただくための当社取組み

節電・需要抑制を 促進する料金メニュー の実施	〔ご家庭〕 ・ 3段階料金制度 ご家庭向けの主な契約である従量電灯は、ご使用量の増加に伴い、料金単価が上昇する3段階料金を設定しているが、節電を促進する観点から第2・第3段階の料金格差を拡大 ・ ピーク対応料金メニューの設定 ピーク時間〔夏季（7～9月）の13～16時〕、昼間時間を割高に、夜間時間を割安にした、新料金メニュー（ピークシフト電灯）を設定 ・ 季時別電灯の加入対象拡大 より幅広いお客さまに節電へご協力いただけるよう、デイトタイム（10～17時）を割高に、ナイトタイム（22～8時）を割安に設定した季時別電灯について、エコキュートなどの夜間蓄熱型機器をお持ちでないお客さまも加入可能とした 〔法人お客さま〕 ・ 夏季計画調整契約について、昨年に引き続き適用範囲を拡大（従来契約電力500kW以上を300kW以上へ拡大）
--	--

(4) 節電にご協力いただくための当社取組み (つづき)

夏季における上手な 電気の使い方等 のお知らせ	〔ご家庭〕 ・ 検針のお知らせ票裏面によるPR ・ 営業所窓口等へ節電取組事例・効果を紹介したチラシ備付 〔法人お客さま〕 ・ 大口お客さまを対象とした個別訪問によるお願い ・ 節電の取組事例・効果を記載したチラシの郵送 ・ 各種業界団体を通じたお願い
当社ホームページ等 を通じた情報提供	・ でんき予報による需給状況の発信 ・ 節電取組事例・効果の紹介 ・ 各発電機の役割・活用方法（揚水発電等）の掲載 ・ メールマガジンによる節電のお願い
自治体に対する節電PR へのご協力のお願い	・ 自治体ホームページや広報誌への節電関連記事の掲載等

(5) ご家庭における節電の具体事例

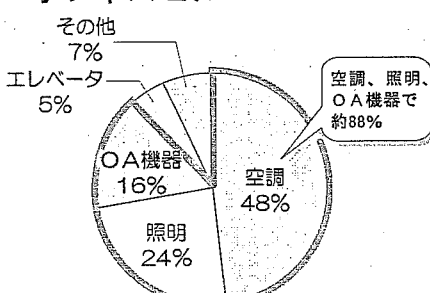
次のような節電の取り組みがおすすめです 【お願いしたい事例】			節 電 効 果	
			削減率	チェック
	○室温28℃を心がける ※設定温度を2℃上げた場合		10%	☐
	○「すだれ」や「よしず」などで窓からの日差しを和らげる ※エアコンの節電になります		10%	☐
	○無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する ※除湿運転やエアコンの頻繁なオンオフは、電力の増加になる場合があるので、ご注意ください		50%	☐
	○冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品をつめこまない ※食品の傷みにご注意ください		2%	☐
	○日中は不要な照明を消す		5%	☐
	○省エネモードに設定するとともに、画面の輝度を下げ、必要な時以外は消す ※標準→省エネモードに設定し、使用時間を2/3に減らした場合		2%	☐
	○早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊いて、冷蔵庫や冷凍庫に保存する		2%	☐
	○リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切る ○長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜く		2%	☐

●効果の記載値は、在宅家庭の昼間ピーク時の消費電力（14時：約1,200W）に対する削減率の目安です（資源エネルギー庁推計）。

●上記のお願いしたい事例と節電効果については、経済産業省「夏季の節電メニュー（ご家庭の皆様）」から抜粋しています。

(6) 法人お客さまにおける節電の具体事例

オフィスビル



空調、照明、OA機器で約88%

出典：資源エネルギー庁推計

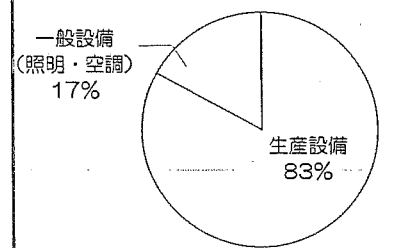
■ 電力消費の内訳【夏季のピーク時断面（例）】
電力消費のうち、空調用電力が約48%、照明及びOA機器（パソコン、コピー機等）が約40%を占めます。
これらを合わせると電力消費の約88%を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

■ 節電メニューと効果

分野	実施内容	削減率
照明	執務エリアの照明を半分程度間引きする。	13%
	使用していないエリア（会議室、廊下等）は消灯を徹底する。	3%
空調	執務室の室内温度を28℃とする。または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる。	4% （+2℃の場合）
	使用していないエリアは空調を停止する。	2%
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	3%

建物全体に対する効果

製造業



出典：資源エネルギー庁推計

■ 電力消費の内訳【夏季のピーク時断面（例）】
電力消費のうち、生産設備が占める割合が高いため、生産工程の節電対策は特に効果的です。
業種（生産品目）や必要な生産環境（空調）に応じて電力消費形態が異なります。
※製造業は種別ごとに電力使用の形態が大きく異なるため、各設備ごとの節電率を記載しています。

■ 節電メニューと効果

分野	実施内容	削減率
照明	使用していないエリアは消灯を徹底する。	—
	白熱灯を電球形蛍光灯ランプやLED照明に交換する。 [効果：白熱灯60W→①電球形蛍光灯ランプ、②LED照明、に交換した場合]	①76% ②85%
空調	工場内の温度を28℃とする。または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる。 [効果：室内温度設定を2℃上げた場合]	6%
	外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。 [効果：換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合]	8%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。 [効果：日射の影響を受ける室外機によしずをかけた場合]	10%

機械・設備毎の効果

●上記のお願いしたい事例と節電効果については、経済産業省「夏季の節電メニュー（事業者の皆様）」から抜粋しています。

- 電力需給に関する情報を「でんき予報」でお知らせします。

掲載イメージ

本日のでんき予報 〇月〇日(〇曜日) (〇時〇分発表)

予想使用率
92%

予想最大電力 (14時～15時発生見込み)

1,490万kW

ピーク時供給力

1,627万kW

予想最高気温

33.9℃

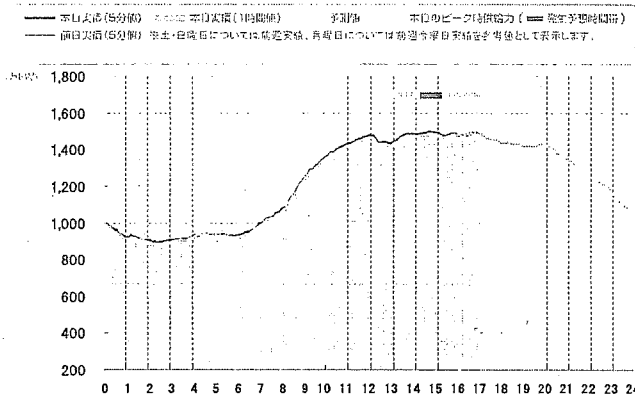
※予報最高気温は、国による地点(福岡、熊本、鹿児島)の最高気温です。

※供給力の内訳を見(3P)

[主な掲載内容]

- 電力需給の見通し(翌週、翌日、当日)
- 供給力の詳細な内訳
- 当日の電力使用状況
(時間毎の電力使用量の推移) など

電力の使用状況



＜供給力の内訳＞

種別	ピーク時供給力 (〇/〇)
原子力	0 万kW
火力	987 万kW
水力	95 万kW
揚水	165 万kW
地熱・太陽光	16 万kW
他社受電	364 万kW
合計※	1,627 万kW

※四捨五入の関係で合計が含まないことがあります

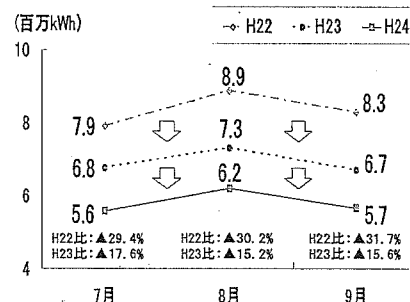
(参考) 当社および関係会社による主な節電の取組み

- 当社およびグループ一体となり、引き続き、徹底した節電(下表)に取り組めます。
- 当社及び関係会社の社員の家庭においても、「緊急時の節電ご協力お願いメール」の登録等により、節電の徹底を図ります。

	今夏の主な取組み	需給ひっ迫時
室温	温度 28℃の徹底	空調停止
	軽装 クールビズの拡大(襟付きポロシャツ等)	
照明	間引き率50%以上 日中(晴天時)は可能な限り消灯	照明全消灯
OA機器	省エネモードの活用、 不使用時のプラグ抜きの徹底	原則使用禁止
昼休み時間	時間変更(13:00～13:50)〔全社〕	—
その他	給湯器・冷水機等の停止	—
	エレベーターの間引き 〔(例) 本店: ▲3台/計8台(始業前・昼休みは除く)〕 原則上下5階は階段利用	運転停止 (階段利用)

昨夏(H24: 7～9月平均)の
オフィス電力使用量削減実績(当社)

- ・H22年度比: ▲30%削減
- ・H23年度比: ▲16%削減



注) 需給ひっ迫時の取組みは、電力の安定供給やお客さま・報道対応、および保安・防災上最低限必要なものを除く。

3 需給ひっ迫予想時のより一層の節電のお願いについて

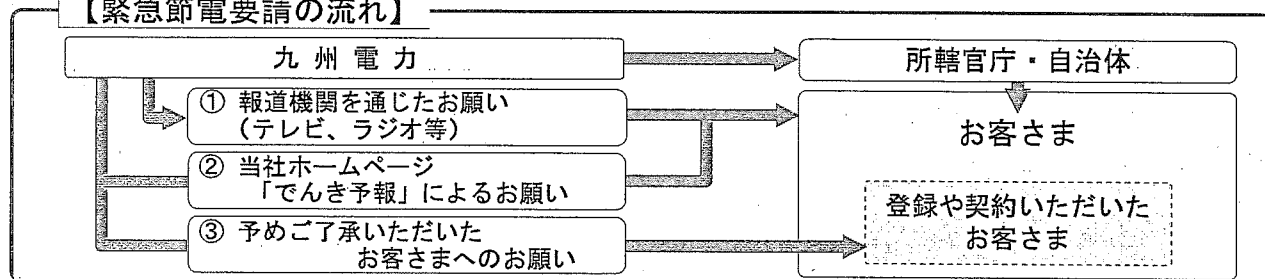
13

- 発電所のトラブルなどの不測の事態によって、需給ひっ迫(予備率3%未満)が予想される場合には、他社からの追加の電力調達などの供給力対策やアグリゲータの活用、スポット負荷調整契約の発動などの需要対策を行います。
- 更に、所轄官庁や自治体と連携をとりながら、報道機関やホームページ等を通じたお願いに加え、「緊急時の節電ご協力お願いメール」等による緊急の節電要請を行います。
- その際、お客さまにおかれましては、空調の停止や照明の消灯など、より一層の節電にご協力をお願いします。

【緊急節電要請のタイミング】

- ・ 前週木曜日の夕方
翌週(月曜日から金曜日)のうち、需給ひっ迫が予想される日をお知らせし、より一層の節電の準備をお願い
- ・ 前日の夕方 - 翌日の需給ひっ迫の可能性が高まったことをお知らせし、翌日に備えたより一層の節電の準備をお願い
- ・ 当日の朝 - 需給ひっ迫がほぼ確実となったことをお知らせし、当該時間帯におけるより一層の節電の実施をお願い

【緊急節電要請の流れ】



3 需給ひっ迫予想時のより一層の節電のお願いについて (つづき)

14

【予めご了承いただいたお客さまへのお願い】

ご家庭向け		〔緊急時の節電ご協力お願いメールを活用した節電のお願い〕 ・ 節電にご協力いただけるお客さまに予め登録いただき、需給ひっ迫(予備率3%未満)が予想される約1時間前に、個別にお客さまの携帯メール宛に更なる節電のお願いを発信 (文例) 14時から17時までの可能な時間帯に1時間程度、エアコン等のご使用を控えていただくようお願いします。 (登録) ・ パソコンから登録する場合：http://www.kyuden.co.jp/em_mail.html ・ 携帯電話から登録する場合： (←QRコード)
法人向け	500kW以上	〔随時調整契約〕 ・ 速やかに大幅な負荷の遮断・抑制をお願い 〔スポット負荷調整契約〕 ・ 1時間単位で負荷抑制をお願い
	500kW未満	〔節電アグリゲータの活用〕 ・ 節電アグリゲータ事業者を通じてお客さまに負荷抑制をお願い